

FACTFULNESS とロータリー精神

4月6日に西播第2グループの会長・幹事会が相生で開催され、当クラブから一色幹事と私が参加しました。会合では主に、来る6月2日に相生で予定されている、ウクライナ人によるバレエ・コンサートについての打合せがありました。

本コンサートは、西播第2グループの4クラブが主催し、ウクライナの平和推進と人道支援を目的にしたチャリティとなっており、会員の皆様の参加をお願い致します。尚、この件は、当クラブでは国際奉仕事業の一環として取り組みます。

本年度、マッキナリーRI会長のテーマは、“CREATE HOPE IN THE WORLD”となっています。しかしながら、希望の願い空しく未だにウクライナやガザでの戦いは終わりません。21世紀最初の本格的な戦争となった今回の戦争は、広瀬陽子慶大教授に拠れば「情報戦」ともいわれており、メディアや政府の情報操作により、何がファクトで何がフェイクなのか、分からなくなっています。SNSなどによる情報の氾濫は却って真実を歪め、バイアスを広めている様に感じます。

ハンス・ロスリング親子の2019年の世界的な大ベストセラー「FACTFULNESS」では、「常識を始め、人間の10の思い込みという本能を乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣」を奨励しています。また、この本には、「人間は無意識に世界をドラマチックに見る本能があり、それがデータの提供者やメディアに利用されていることに警鐘を鳴らす」と共に、「叡智を尽くしても真実を見極める困難である上、世界は常に変わり続けるので知識と世界の見方は生涯アップデートし続けなければならない」と書かれています。

生成AIやDXが進展する現代社会を生きる我々は、ファクトとフェイクを見極め、何が真実か追及することが大切であり、個人の経験・勘に頼らず、データで問題を分析することが求められていますが、これは実の処、古代ギリシアの哲人の時代から云われていたことです。

同様に、ロータリーも119年の歴史を経て世界に拡大する中で、中核的価値観は堅持されているものの、DEIなど時代の潮流を受けて確実に変化を遂げています。これからは、ロータリー活動についても、ロータリーのファクトを見極める見識に加えて、ロータリーならではの精神と奉仕がそこに込められているかどうかのチェックが重要になると考えます。

ウクライナ侵攻の真実はよく分かりませんが、ウクライナ人が日本に平和を求めて避難していることは真実であり、この度、西播第2グループが、人道的立場からチャリティ・バレエ・コンサートを開催できることは、私にとって幸いに存じます。